

平成 28 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	広島市立皆実小学校		
学校長氏名	兼樹 透	栄養教諭氏名	井上 博子
職員数	53名	児童・生徒数	734名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

給食では、好き嫌いがあるが、残さず食べようとする児童が95%と多く、残食も少なくなっている。しかし、おかずに比べ、ごはんの残食は多く、食べ方には問題がある。基本的な生活習慣で朝食摂取については95%とほとんどの児童が身につけているが、朝食に野菜を食べている児童は6割から7割、朝の排便がある児童は4割弱にとどまっており、生活リズムがととのっていない児童もいる。

高学年になると食に関する知識は高くなっているが、実践に結びついていない児童もいる。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

・年間指導計画に基づいた食に関する指導の実施

食育の6つの目標から学年ごとに重点目標を決め、6年間で学びを積み上げ、系統立てた指導となるよう取り組む。低学年は「知りたい（興味を持つ）」、中学年は「わかりたい（理解する）」、高学年は「やってみたい（実践する）」という観点で指導内容を考える。

児童の実態から、毎日朝食をとる事は身につけているが、朝食内容は主食のみといった児童もいる。また、朝の排便習慣が身につけていない児童も多い。朝食指導と家庭への啓発を行う。

・評価テストの実施

学年の目標に応じた観点を数値で評価できる評価テスト（食品の仲間分け）を行う。

食べ物の仲間分けとその働きがわかる児童が、

80%以上 4 70%以上 3 60%以上 2 60%未満 1

・学校評価アンケートの実施

児童・・・食べ物の大切さに気づき、食べ残しをしないように気をつけることができたか。

保護者・・・お子さんは、食に関する関心が高まっているか。

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】（テーマ） 教科等における食に関する指導の充実に向けた取組みについて

低学年は「知りたい（興味を持つ）」という観点で、体験活動を取り入れた授業を行った。1年生の特別活動「きゅうしょくについてしろう」においては、たまねぎの皮むき、2年生の特別活動「やさいと友だちになろう」においては、にんじんの皮むきを行い、さらにその野菜を給食で使った。給食放送で全校に知らせることで、関心も高まった。

中学年は「わかりたい（理解する）」という観点で、3年生は食べ物の仲間分けの学習、4年生は体育科保健「育ちゆく体とわたし」において、よりよく成長するために食事で気をつけることを考え、食に関する知識を身につけた。

高学年は「やってみたい（実践する）」という観点で、家庭科や特別活動での学習から実践につなげるよう取組んだ。特別活動では、朝食指導を行い、5年生は朝食の役割と内容について考え、6年生は朝食で野菜をとるために自分でできることを考えた。学習したことをもとに、夏季休業中には朝食作りにも取組んだ。6年生は、家庭科、言語数理運用科、総合的な学習の時間において、「地場産物を使ったオリジナル給食」の献立作成に取組んだ。各自が考えた献立を学級で発表し、互いに評価を行い、評価の高かった献立から学級の献立を決定した。選ばれた献立から、家庭科では1食分の食事の調理を行い、給食では「皆実小オリジナル給食」として独自献立を実施した。「皆実小オリジナル給食」実施日には、6年生が自分たちの学級の献立を全学級で説明した。他の学年の児童は、6年生の考えた献立ということで、給食への興味関心がさらに高まった。6年生にとっては、6年間の食育の学びのまとめの取組みとなった。

また、給食週間には全学年において「感謝の心」について考える学習を行った。学習後は、「感謝して食べよう。」「ごはん粒を食器に残さないように食べよう。」「食事のあいさつをきちんとしよう。」という気持ちが高まったようである。

【取組2】(テーマ) 残食0をめざして!

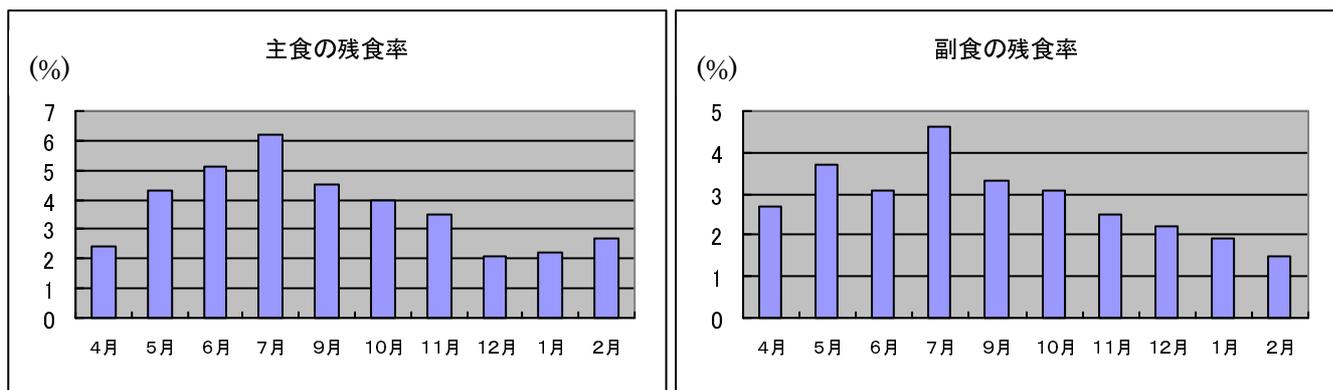
給食委員会をはじめとする児童を中心とした「残食0をめざして!」の取組みをしている。この取組みは食缶を空にすることだけが目的ではなく、残食0をめざすことを通して、食の大切さや体のこと、感謝の気持ちなどについて考えるというものである。

給食委員会では給食運搬や返却の手伝いといった日々の活動を通して、「残さず食べよう」という呼びかけを行っている。また、キャラクターの募集を行い、給食への関心が高まるよう取組んだ。キャラクター募集においては、募集内容を考え、各学級へ説明に行った。500近い応募の中から、黄・赤・緑の食べ物に関する1作品ずつを今年度のキャラクターとして選んだ。選ばれたキャラクターは食育の取組みに活用している。

他の委員会やクラブ・学級においても、残食0を呼びかける活動を行い、全校での取組みとなっている。

また、日々の給食指導や教科等における食に関する指導においても、「食べることの大切さ」を考えられるような取組みを行っている。

これらの取組により、残食率も下がってきている。児童アンケートにおいて「食べ物の大切さに気づき、食べ残しをしないように気をつけている。」と答えた児童が94.2%であった。保護者アンケートにおいても「お子さんは、食に関する関心が高まっている。」と答えた保護者が87.2%出た。給食への関心が高まり、このことが食への関心の高さや食に関する知識の定着にもつながっていると考えられる。



4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

- ・統一献立に「タコタコライス」を取り入れた。
- ・夏季休業中の料理教室において、ひろしま給食を取り入れた。(写真1・2)
- ・夏季休業中の職員食育研修において、ひろしま給食を取り入れた給食室での調理実習を行った。(写真3)
- ・食育だよりでひろしま給食を紹介し、作って食べた感想を返していただく欄を設けた。



(写真1)



(写真2)



(写真3)

5 取組に対する成果と課題

【成果】

○成果指標：食べ物の仲間分けとその働きがわかる（評価テスト正答率80%以上）児童が、80%以上（評価4）、70%以上（評価3）、60%以上（評価2）、60%未満（評価1）

○評価点検：1年 98.4%（評価4） 2年 69.2%（評価2）

3年 91.8%（評価4） 4年 78.2%（評価3）

5年 83.6%（評価4） 6年 79.2%（評価3）

◎成果

- ・食に関する関心は高まっている。知識については6年間で積上げることができていると考える。
- ・給食への関心も高く、残食率も下がっている。児童が主体的に取り組む「残食0をめざして！」の取り組みを通して、食について考えることができている。

【課題】

◎積上げた知識が実践につながっていない児童も見られる。

◎朝食摂取や朝の排便習慣など生活リズムを整えることは、学校における取組だけでは難しい。家庭との連携が必要である。

6 今後の取組に向けた改善方策について

- ・教職員の食育の意義理解をさらに深め、共通認識を持って取り組む。
- ・児童や学級の実態に沿った形で日常的に取り組む。また、児童が関心を持って学習できるような取り組みを継続していく。
- ・家庭と連携した取組となるよう、家庭への情報発信の方法を検討する。